

水天宮御守（いつもじ）

一一九〇年に水天宮をご創建された按察使局（あぜちのつぼね）伊勢より歴代宮司へ口伝にて伝わる御守です。

水天宮の御守は立春前、神職が七日七夜のお籠りを経て、立春当日の神水祈禱にて、筑後川よりご神水を戴きます。その後、ご神水にて墨をすり、版木に塗り奉製されます。ご利益といたしまして、体調がすぐれない時に護符を飲むとご利益をいただける信仰が現在でも残っております。また、筑後地方では魚の骨がつまった時など幅広く用いられております。

御守の飲み方は平仮名の「の」字を書くように飲みます。先ず、コップに水を用意し文字の真ん中の1を指で千切ります。（その際はカッターやハサミは使わないで下さい。）千切った文字を用意したコップに浮かべ、願掛けをします。その後、水と一緒に文字を飲みます。五つ文字が有りますが、一度に全て飲む必要はありません。

